

2023年度

| | |
|--------------------|---|
| 科目名称 | 母性看護援助論（周産期の基礎） |
| 授業コード | BK258 |
| 英語名称 | |
| 学期 | 2023年度後期 |
| 単位 | 2.0 |
| 担当教員 | 藤井 美穂子 (医療科学部), 今野 友美 (医療科学部), 長田 知恵子 (医療科学部), 藤田 聡子 (医療科学部) |
| 記入不要 ナンバリングコード | |
| 授業の概要 | 本科目では、周産期における正常な経過にある母子（妊産褥婦及び胎児・新生児）とその家族の特徴と援助について学ぶ。 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の身体的変化と心理・社会的特徴を理解するとともに、ウェルネス思考について学ぶ。さらに母子とその家族の健康の維持・増進と健康回復のための医学的基礎知識について学習する。 |
| 科目に関連する実務経験と授業への活用 | 担当教員3名は、看護師・助産師としての経験を活かし、エビデンスに基づいた最新の情報をを用いて講義を行う。藤田先生は現役の産婦人科医であり、臨床医の立場を生かした豊かな講義を行う。 |
| 到達目標 | この科目はディプロマポリシーに掲げる「科学的な根拠に基づき、対象者の健康と生活の質を高める看護を実践するための論理的思考力、基本的な問題解決能力を修得している」及び「地域で暮らす人々の多様な文化、生活背景、価値観を尊重し、個人・家族および地域の健康レベルに応じた地域包括ケアを実践する基礎的能力を有している」ために、看護の専門性を学ぶ科目の1つであり、以下の5つを目標としている。 1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の身体的変化及び心理・社会的特徴について理解できる。 2. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の健康維持・増進のための援助を行うために必要な医学的基礎的知識が理解できる。 3. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の健康状態に影響を及ぼす要因について、及び健康からの逸脱について理解できる。 4. 母親及びその家族がより健康に子育てが出来るように、退院後に困らないような知識・技術が提供できるための知見を得ることができる。 5. 看護者としての自己の深化を図るために、ウェルネス思考を理解する。 |
| 計画・内容 | 第1回 ガイダンス、小テスト（女性ホルモン、女性生殖器に関して） 妊娠期における看護 妊娠期の身体的特性 （妊娠の生理、胎児の発育とその生理、母体の生理的变化） 担当：藤井、長田、今野（助産師） 第2回 妊娠期における看護 妊娠期の心理・社会的特性、妊婦と胎児のアセスメント、妊婦健康診査（NSTの判読含） 担当：藤井、長田、今野（助産師） 第3回 分娩期における看護 （分娩の要素、分娩の経過、分娩による母体・胎児への影響、産婦の身体的・心理的・社会的変化 担当：藤井、長田、今野（助産師） 第4回 分娩期における看護 産婦と家族の看護 担当：藤井、長田、今野（助産師） 第5回 新生児の特徴と生理的变化 担当：藤井、長田、今野（助産師） 第6回 新生児の正常からの逸脱と看護 担当：藤井、長田、今野（助産師） |

| | |
|----------------|---|
| 計画・内容 | <p>第7回 産褥期における看護 産褥期の概念、産褥期の身体的変化 担当：藤井、長田、今野（助産師）</p> <p>第8回 産褥期における看護 産褥期の心理・社会的変化、保健指導 担当：藤井、長田、今野（助産師）</p> <p>第9回 妊娠期・分娩期の異常、ハイリスク妊娠、異常妊娠、ハイリスク分娩 担当：藤田（産婦人科医師）</p> <p>第10回 産褥期、新生児期の異常 担当：藤田（産婦人科医師）</p> <p>第11回 産褥期における看護 母乳育児（乳房・乳頭の解剖生理、乳汁分泌のしくみ等） 担当：藤井、長田、今野（助産師）</p> <p>第12回 産褥期における看護 母乳育児支援の実際 担当：藤井、長田、今野（助産師）</p> <p>第13回 妊娠期における看護 演習 （妊娠経過に関するアセスメント、妊娠期の生活支援、妊婦と家族の看護、親性準備教育） 担当：藤井、長田、今野（助産師）</p> <p>第14回 妊娠期における看護 演習 （妊娠経過に関するアセスメント、妊娠期の生活支援、妊婦と家族の看護、親性準備教育） 担当：藤井、長田、今野（助産師）</p> <p>第15回 周産期の異常のまとめ 担当：藤田（産婦人科医師）</p> |
| 授業の進め方 | <p>1. 講義を中心に行い、教科書に沿ってすすめていく。講義では適宜、資料の配布及び視聴覚教材を用いる。予習を行っていることを前提に講義を行う。</p> <p>2. 授業の進行状況により授業内容・進度を変更する場合がある。予習・復習は各自の責任において行う。</p> |
| 能動的な学びの実施 | <p>・適宜演習を実施する。演習では、グループ分けを行い、課題についてグループメンバーとディスカッションし、解決策を導いていく。</p> |
| 授業時間外の学修 | <p>【予習】教科書の講義に該当する箇所と講義資料を読む（各回1～2時間程度）。</p> <p>【復習】講義のポイントを踏まえながら、教科書と講義資料を関連付け、自分の資料を整理する（各回1～2時間程度）。母性領域では、独特な専門用語や表現があり、そのことを熟知しておくことで、実習時にも活かすことができる。</p> |
| 教科書・参考書 | <p>〔教科書〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森恵美 他（2021）：系統看護学講座 専門分野 母性看護学〔2〕母性看護学各論、第14版第1刷、医学書院 <p>〔参考書〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太田操 編著（2017）：ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版、医歯薬出版株式会社 ・荒木勤（2008）：最新産科学、正常編 改定第22版、文光堂 ・医療情報科学研究所（2021）：病気がみえるvol.10 産科第4版、メディックメディア |
| 成績評価方法と基準 | <p>試験（小テスト10%、期末試験90%）100%</p> |
| 課題等に対するフィードバック | <p>・意見や質問、感想に対しては、次回講義の中もしくは掲示板を利用してフィードバックを行う。</p> |
| オフィスアワー | <p>CampusSquareを参照。</p> |

2023年度

| | |
|------------------------------------|--|
| 留意事項 | <ul style="list-style-type: none">・本科目は3年次の母性看護援助論 に繋がるものである。十分に理解・修得をすることで、母性看護援助論 での看護過程が理解でき、演習やケアの実践に繋がるため、積極的に取り組むことを推奨する。・母性看護学は性や生殖に関する内容を扱う領域であり、教員が作成する資料や動画が本学習の目的以外に使われることの無いよう、取り扱いには十分注意する。仮に、講義内容や動画が学外へ流出する等の問題が発覚した場合は、単位認定を検討する。 |
| 非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」 | <ol style="list-style-type: none">1. 講義の進め方は変わらない。ZOOMやYou-Tubeによるオンライン授業と課題学修を組み合わせ実施する2. 試験はWeb上にて、Forms等を使用して実施する。3. 成績評価方法と基準は変わらない。 |